

## 次号予告

### 特 集 管 理

リハビリテーション医療における管理の問題点

(特集にあたって)……………東大病院 上 田 敏

リハビリテーション専門病院の管理上の問題点

……………中通リハビリ病院 渡辺 淳・他

理学療法部門の管理……………東大病院 菊 地 延 子

作業療法部門の管理……………悲田院 松 下 起 士

座談会/PT・OT 部門の管理をめぐって

……………藤本欽也・松沢 博・須崎 進・佐藤 馨・(司会)寺山久美子

と び ら 「理学療法」と「作業療法」の間の対話

(一精神科医の感想)……………東京都精神医学研究所 吉 松 和 哉

講 座 障害学概論1. 障害学総論

(障害の概念と構造を中心に)……………東大病院 上 田 敏

PT・OT のためのマイコン入門 1. 概念

……………労災義肢センター 土 屋 和 夫

プログレス 行動医学の進歩 (1)理論の確立……………上智大・文学部 西 川 泰 夫

PT・OT の挑戦 青年海外協力隊に参加して ……神奈川リハセンター 谷 口 裕

神奈川県こども医療センター 小 越 信 子

あ ん て な 理学療法士の求人状況……………国療東京病院リハ学院 金 子 誠 喜

## 編集後記

この特集を組む時に、1つの疑問と不安がありました。日常の臨床場面ではOTやPTが、障害者や家族との話し合いを持つことはしょっちゅうです。そういった時きかけは何であれ、話し合うこと自体がカウンセリングの一部であると自覚しているOTやPTはどの位いるだろうか、との疑問です。またカウンセリングはその道の専門家による特殊な話し合いとしてイメージ化されているかもしれません。とすれば、この特集は医療関係者の「知的教養講座」として読み流されてしまうかもしれないという不安です。

大段論文は「すべての医療者は現代のカウンセリングから学ぶべし」の挑発的なタイトルを掲げ、我々が気づかずにやっている乱暴な関わり方を指摘しています。医療関係者に対する大段氏の義憤にも似たいらだちが伝わってきます。当事者意識を十分挑発されてから他の論文をしっかりと読んで頂けたらと願っています。

田畑論文ではカウンセリングの系譜と現

状を分かりやすく整理して頂きました。総論として読みごたえのある内容です。上野蘊論文では「…励まされ、支えられ、いやされるのはカウンセラーである私たちかもしれない…」の結語が印象的です。障害者の「気になるすがた」も含蓄ある表現として心に響いてきます。岡堂論文ではリハビリテーション場面での具体的な事例を通して、臨床での盲点になりやすい障害者と家族と治療者の複雑な絡み合いを鮮明に描き出しています。「私のカウンセリング体験」も、限られた紙面の中に密度の濃い内容が盛られています。皆様の体験と比較しながらゆっくりお読み下さい。

最後になりましたが、この号には第8回「理学療法と作業療法」賞・受賞論文が掲載されています。いずれも教育をテーマにした力作です。厳しい審査を経ての受賞に、心よりお喜び申し上げたいと存じます。

寒くなりました。読者の皆様、御身体を御慈愛下さいませよう。(富岡 詔子)

### <編集顧問>

天 児 民 和  
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春  
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂 原 茂 一  
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一  
東京大学教授整形外科

水 野 祥太郎  
川崎リハビリ学院院長  
(五十音順、以下同じ)

### <編集委員>

上 田 敏  
東大リハビリ部

荻 島 秀 男  
ペインリハビリテーションクリニック高島平  
整形外科

大喜多 潤  
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子  
都心身障害者センター

富 岡 詔 子  
信州大学医療技術短大

奈 良 勲  
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子  
筑波大学

松 村 秩  
都養育院リハビリ部

### <編集同人>

安 達 克 己  
池 田 俊 雄

伊 東 元 夫  
宇都宮 初 夫

大 丸 幸 翼  
金 子 幸 翼

鎌 倉 矩 子  
紀 伊 克 昌

木 村 信 子  
駒 沢 治 夫

佐 藤 馨 明  
嶋 田 智 明

鈴 木 明 子  
関 昌 家

高 橋 正 明  
中 屋 久 長

橋 元 隆  
藤 沢 しげ子

矢 谷 令 子  
山 下 隆 昭

(担当 細田・西塚)